

7節 耐候性塗料塗り(DP)

18. 7. 1 一般事項

この節は、屋外の鉄鋼面、亜鉛めっき鋼面、コンクリート面等の耐候性塗料塗りに適用する。

18. 7. 4 コンクリート面及び押出成形セメント板面の耐候性塗料塗り

コンクリート面及び押出成形セメント板面の耐候性塗料塗りは表18. 7. 3により、種別は特記による。

表18. 7. 3 コンクリート面及び押出成形セメント板面の耐候性塗料塗り

工程	種別			塗り工法その他			塗付量 (kg/m ²)
	A種	B種	C種	規格番号	規格名称	種類	
素地ごしらえ	○(注)1			表18.2.6によるA種ただし、押出成形セメント板面はB種			—
1 下塗り	○	○	○	JASS 18 M-201	反応形合成樹脂シーラーおよび弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー	—	0.08
2 中塗り	○	—	—	JASS 18 M-405	常温乾燥形ふっ素樹脂塗料用中塗り(常温乾燥形ふっ素樹脂塗料用中塗り及び弱溶剤系常温乾燥形ふっ素樹脂塗料用中塗り)	—	0.14
	—	○	—	JASS 18 M-404	アクリルシリコン樹脂塗料用中塗り(アクリルシリコン樹脂塗料用中塗り及び弱溶剤系アクリルシリコン樹脂塗料用中塗り)	—	0.14
	—	—	○	JASS 18 M-403	2液形ポリウレタンエナメル用中塗り(2液形ポリウレタンエナメル用中塗りおよび弱溶剤系2液形ポリウレタンエナメル用中塗り)	—	0.14
3 上塗り	○	—	—	JIS K 5658	建築用耐候性上塗り塗料	1級(主要原料ふっ素樹脂)	0.10
	—	○	—			2級(主要原料シリコーン樹脂)	0.10
	—	—	○			3級(主要原料アクリル樹脂)	0.10

(注) 1.素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。

2.JASS 18 M-201、M-403、M-404及び M-405は、日本建築学会材料規格である。

【18. 2. 6 コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ】

(2) 押出成形セメント板面及び7節[耐候性塗料塗り(DP)]におけるコンクリート面の素地ごしらえは表18. 2. 6による。ただし、種別は、塗り工法に応じた節の規定による。

表18. 2. 6 コンクリート面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ

工程	種別		塗料その他			面の処理
	A種	B種	規格番号	規格名称	種類	
1 乾燥	○	○	—	—	—	素地を十分に乾燥させる
2 汚れ、付着物除去	○	○	—	—	—	素地を傷つけないように除去する
3 下地調整塗り(注)1	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1,C-2 又はCM-2	全面に塗り付けて平滑にする
4 吸込み止め	○	○	JASS 18 M-201	反応形合成樹脂シーラー及び弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー	—	全面に塗り付ける
5 パテしごき	○	—	JASS 18 M-202	反応形合成樹脂パテ	2液形エポキシ樹脂パテ	全面をしごき取り平滑にする
6 研磨紙刷り	○	—	—	研磨紙P120~220	—	乾燥後、全面を平らに研磨する

(注) 1. 押出成形セメント板面の場合は、工程3を省略する。

2. 7節[耐候性塗料塗り(DP)]におけるコンクリート面の場合、工程3の建築用下地調整塗材のC-1、C-2又はCM-2の使い分けは、15. 6. 5[下地調整](1)による。

3. 工程4のシーラー及び工程5のパテは、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定するものとする。

4. JASS 18 M-201及びM-202は、日本建築学会材料規格である。

【15. 6. 5 下地調整】

(1) コンクリート面の下地調整は、次による。

(ア) 目違いは、サンダー掛け等により取り除く。

(イ) 下地面の清掃を行う。

(ウ) 下地調整塗材C-2を、1~2mm程度全面に塗り付けて、平滑にする。

ただし、スラブ等の見上げ面、厚付け仕上塗材仕上げ等の場合は、省略する。

(エ) 下地の不陸調整厚さが1mm以下の場合は、(ウ)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材C-1を平滑に塗り付けることが出来る。

(オ) 下地の不陸調整厚さが3mmを超えて10mm以下の場合は、(ウ)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材CM-2を平滑に塗り付けることが出来る。